



(3) 労働安全衛生活動コスト

労働安全衛生活動のコストを可視化するためには、労働安全衛生活動を列挙し、そのコストを積み上げます。活動基準原価計算 (Activity-based costing) の考え方に基づいて行う方法です。

図4に、コストを計算するためのツールを示します。例えば、健康診断であれば、健康診断受診者1人が1時間30分かけて就業時間内に受診した場合、その分の人件費も計算できるようになっています。これにより、どの活動に、いくらコストがかかっているかを可視化することができます。

	詳細	費目	コスト							
			経費	減価償却	投資	人件費に相当する費用				
			経費額 (円)	減価償却費 (円)	投資額 (円)	一人1時間当 りの人件費 (円)	時間	人数	回数	合計(円)
4. 健康診断										
	(1)健康診断(定期)									
	一般健康診断	合計に記載	経費	¥10,500,000						
		全社員が対象	人件費			¥6,000	1.5	209	1	¥1,881,000
			人件費			¥4,800	1.5	1091	1	¥7,855,200
	特殊健康診断	合計に記載	経費	(上記に算入)						
		一般社員が中心	人件費			¥4,800	1	700	1	¥3,360,000
	再検査	肝機能、尿検査、 バイオロジカルモ ニタリング	経費	¥200,000						
		全社員が対象	人件費			¥6,000	1	6	2	¥72,000
			人件費			¥4,800	1	24	2	¥230,400
	二次検査	なし	経費	¥0						
		全社員が対象	人件費			¥6,000	1	6	2	¥72,000
			人件費			¥4,800	1	34	2	¥326,400
健康診断		小計	経費	¥10,700,000						
健康診断			減価償却費							
健康診断			投資							
健康診断			人件費							¥13,797,000
	具体的活動内容	健診検査項目は法定基準に準じるよう全社統一。特殊健康診断には騒音健診も含まれる								
	効果									

図4. 安全衛生コスト集計表の1例 (健康診断)

安全衛生コスト集計表、衛生・健康管理コスト集計表、健康管理コスト集計表を作成し、ホームページに無償で公開しています。

<http://ohtc.med.uoeh-u.ac.jp/health-accounting.html>

(4) 労働安全衛生活動の効果

安全衛生活動の取組みに関する費用対効果を含む経済評価研究は、数多く行われています。産業保健活動の経済評価研究をレビューし、その中で用いられている評価指標を列挙し、分類したものを表10に示します。また、その関連性を図示したものが図5です。

表10. 産業保健活動の評価指標

効果(便益)の享受者	分類	具体例
対労働者	健康の改善	検査値の改善, 生活習慣の改善, 症状の有訴率の改善
	満足度の向上	産業保健活動に対する満足度, 福利厚生施策に対する満足度
	私生活の充実	疾病による有給休暇取得日数の削減
対企業	帰属意識の向上	離職率の低下, 労働者のモラル向上
	疾病休業の低減	疾病休業日数の低減, 疾病休業者数の減少, 復職後の継続出勤日数の延長
	労働生産性の向上	プレゼンティーズムの減少, 復職後の体調が良好, 製品の品質向上, 生産効率の向上
	企業イメージの向上	企業イメージの向上, 新規採用に有利
対社会 対健康保険組合	医療費の減少	医療費の減少, 労災保険給付金額の減少

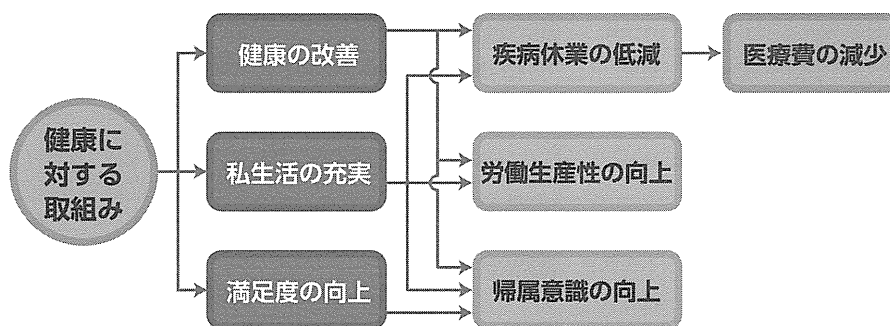


図5. 産業保健活動の評価指標の関連

従業員の健康に対する取組みは、単に福利厚生のためだけでなく、労働生産性を向上に貢献します。社会に対しては、年々増え続けている医療費の減少（上昇傾向の低減）に貢献することになります。健康に対する取組みをCSR関連報告書等で広く社会に公開することは、企業イメージの向上にも繋がるでしょう。良い取組みを積極的に推進し、それを社会に対して説明しようとする真摯な姿勢そのものが、企業価値向上へと結びつきます。

働く人の安全と健康を守ること（安全衛生活動）は、すべての企業で最優先に取り組むべき事項です。しかし、安全衛生活動に無限の時間・資金をかけることはできないため、個々の企業は創意工夫をこらし活動を推進しています。

より良い取り組みをするためには、まず良好事例を真似ること

安全衛生活動の推進のためには、良好事例（Good Practice）の水平展開が有効です。

本資料集は、企業の枠を超え、良好事例が水平展開されていく社会を思い描いて作成しました。

より良い安全衛生活動を推進する文化

よい活動を積極的に社外に公表する文化

よい活動を取り入れる（真似る）文化

を通じて、社会全体の共通価値である、働く人の安全と健康が確保されることを願っています。

参考文献

バリューシフト 企業倫理の新時代（リン・シャープ・ペイン著、毎日新聞社）

企業評価+企業倫理 CSR へのアプローチ（岡本大輔・梅津光弘著、慶應義塾大学出版会）

日本語訳 ISO 26000:2010 社会的責任に関する手引（ISO/SR 国内委員会監修、日本規格協会）

CSR 入門講座第 1 巻「CSR の基礎知識」（田中宏司著）

CSR 入門講座第 4 巻「CSR 会計を導入する」（倍和博著）

CSR 入門講座第 5 巻「社会的責任投資 (SRI) の基礎知識」（水口剛著）

（いずれも日本規格協会）

よくわかる「健康会計」入門（森晃爾・奥真也・永田智久著、法研）

産業医ストラテジー（産業医学推進研究会、バイオコミュニケーションズ株式会社）

環境会計ガイドライン 2005 年版（環境省）

http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=6396&hou_id=5722

R-Bec007 CSR 会計ガイドライン（麗澤大学 企業倫理研究センター）

http://r-pec.reitaku-u.ac.jp/report_download/doc/2009040217194174_1.pdf

謝辞

本資料集は、厚生労働科学研究費補助金 労働安全衛生総合研究事業「安全衛生活動の費用対効果を算出する手法の開発とその公表ガイドの作成に関する研究（H 2 3 -労働-若手-0 0 6）研究代表者：永田智久」の研究で作成いたしました。ここに感謝の意を表します。

東証一部上場企業の CSR 関連報告書の調査には、
産業医科大学産業医実務研修センター 教員、修練医
産業医科大学産業生態科学研究所（産業保健経営学研究室） 教員
産業医科大学医学部学生
ほか、多くの方々関わっています。その氏名を下に示します。

池田友紀子、池水成太郎、石川麻子、大室正志、岡原明日香、岡本春美、尾土井悠、加藤梨佳、
門脇康二、亀田高志、河下太志、國木康久、黒岩望、酒井洸典、塩田拓也、清水太一、
染村宏法、宋裕姫、平良素生、高橋宏典、多田隈潔、田中宣仁、谷山ゆかり、長倉竜士、
永田智久、中村佐紀、成定明彦、乗宗麻衣、平岡晃、平岡美佳、藤崎丈詞、藤田周弥、
古屋佑子、松崎佳奈、松村美佳、丸山崇、宮下奈々、宮部大輔、森晃爾、森本英樹、横川智子、
吉野俊美（五十音順、敬称略）

引用の際の記載について：

永田智久、森晃爾「CSRにおける労働安全衛生の報告のための資料集」(2014)

お問い合わせ先：

研究代表者 永田 智久
産業医科大学産業生態科学研究所（産業保健経営学研究室）
〒807-855 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
TEL: 093-603-1611（学内PHS 4921）
FAX: 093-603-2155
E-mail: tomohisa@med.uoeh-u.ac.jp

